

連合福島「2025 春季生活闘争討論集会」開催！

☆連合「2025 春季生活闘争方針」決定☆



澤田精一連合福島会長のあいさつ

連合福島は、2025 春季生活闘争討論集会を12月7日（土）13時～郡山市熱海町の郡山ユラックス熱海において、構成組織・地区連合から役員並びに執行委員約230名が参加のもとに開催した。

冒頭、連合福島を代表して澤田精一会長より、『2024 闘争では 33 年ぶりの 5% 台の賃上げが実現したものの、生活が向上したと実感する人は少数であり、個人消費は低迷している。これは続く物価高が私たちの家計を圧迫し、更に中小企業や適切な価格転嫁・適正取引が進んでいない産業などに、賃上げの流れが十分に波及していないことも要因の一つである。

連合福島 2025 春闘方針及び取り組みの決意として、1 点目に、「みんなの賃上げで、みんなの生活を向上させ、新たなステージを定着させる」ことをめざす。2 点目に「働くことを軸とする安心社会」に向け、格差是正と分配構造の転換に取り組む。最後 3 点目は「みんなの春闘」で労働組合に集う仲間を増やし、集団的労使関係を広げる。多様な働く仲間に向けて「みんなの春闘」を展開し、労働組合だからこそ、労使対等の立場で労働条件などの交渉ができるという労働組合の存在意義を広く社会にアピールし、仲間を増やし、集団的労使関係を社会に広げていく。

2025 春闘は、賃上げがあたりまえの社会 新たなステージを定着させるための重要な闘いになる。賃上げは、政府が決めるものではない。組合と会社との真摯な交渉によって決まるものである。連合福島は、その重大な役割を担い、福島における2025 春季生活闘争を牽引していく』と挨拶した。

その後、連合 総合政策推進局 労働条件・中小地域対策局 奥山義彦局長より『連合「2025 春季生活闘争方針」について』と題し、『「賃金も物価も上がらない」という社会的規範（ノルム）を変えるのは今である。ノルムを変えることで日本経済の体温を欧米並みに温め、実質賃金が継続的に上昇することで個人消費を拡大し、賃金と物価の好循環を実現する必要がある。そのカギの一つが、賃上げの広がりや格差是正であり、もう一つが、適切な価格転嫁・適正取引の徹底、製品・サービスと労働の価値を高め認め合う取引慣行の醸成である。

揺れ動く国際社会の中でわが国経済社会を安定させ、人口減少のもとで社会や産業・企業を維持・発展させていくためには、中長期を見据えた「人への投資」が不可欠である。「人への投資」をより一層積極に行うとともに、国内投資の促進とサプライチェーン全体を見据えた産業基盤の強化により、日本全体の生産性を引き上げ、国際収支を改善し、持続的な生活向上の実現をめざす』と今春闘の意義と基本スタンス、具体的方針について講演頂いた。

参加者からは、データと説明で今次春闘方針に対する理解がより深まったとの意見を頂いた。参加者の皆様の理解・協力に感謝し、終了報告とする。



講師の奥山義彦労働条件・中小地域対策局長